

# 「自治労共済」の誕生と歴史

— こうして自治労共済は発展を遂げた —

1966年の創立以来、自治労共済は相互扶助の理念に基づき、各種共済制度を発足・改定してきました。今日ではコンプライアンス（法令順守）を重視した経営改革を進め、「安心・安定・信頼」をキーワードに共済活動を推進しています。自治労共済がこれまでどのような歩みをたどってきたか、社会的背景とともに振り返ってみましょう。

「風のハッピー」が  
自主福祉と共済のマスコットです

わたしたち自治労共済にも、「絆と希望の伝道をするキャラクター」を、と考えました。そして登場したのが「幸せを呼ぶ風のHAPPI」です。爽やかな風のように海を越え、街を飛んで、ひとりでも多くの幸せを願うひとびとに、自主福祉運動の素晴らしさを伝える使命を持って誕生しました。ひまわりのような顔をした「風のハッピー」は自治労共済と組合員のマスコットとして頑張ります。

西暦	自治労共済のあゆみ	自治労事業本部のあゆみ	社会の出来事
1954	・自治労第10回山口大会で、組織共済の方針提起		・自治労統一大会
1962	・4月25日「全日本自治体労働者共済生活協同組合」創立		・日本総人口1億人突破
1966	・6月1日自治労共済総合共済I型（基本型月額50円）制度発足		
1967	・出資金額1口50円		
1968	・基本型「結婚給付」新設		
1969	・基本型「複数口数制度」新設		
1970	・総合共済II型（大型月額500円）制度発足		
1971	・自動車共済A型（対人1000万円、対物100万円）制度発足		
1972	・自動車共済B型（対人1000万円、対物100万円）制度発足		
1973	・自動車共済C型（対人1000万円、対物100万円）制度発足		
1974	・出資金額1口100円に改定		
1975	・自動車共済B型（対人2000万円、対物100万円）新設		
1976	・自動車共済I型（基本月額100円）制度改定		
1977	・総合共済I型（基本月額100円）制度改定		
1978	・自動車共済C型（対人3000万円、対物130万円、自損、無共済）新設		
1979	・自動車共済A型廃止		
1980	・基本型加入者、100万人を突破		
1981	・自動車共済C型に家族搭乗者傷害をセット		
1982	・基本型の2口加入実施		
1983	・自動車共済C型（対人5000万円、対物200万円）制度改定		
1984	・火災共済の掛金を引き下げ		
1985	・自動車共済C型（対人1億、対物3000万円）制度改定		
1986	・火災共済引受口数を全労済と完全折半		
1987	・自動車共済制度改定（掛金引き上げ、免責額引き上げ）		
1988	・指定整備工場制度を実施		
1989	・夜間休日事故受付を実施		
1990	・火災共済の掛金を引き下げ		
1991	・自動車共済相談員制度実施		
1992	・自動車共済の第3次制度改定（対人無制限、対物1000万円）		
1993	・火災共済（6000万円）制度改定		
1994	・自動車共済夜間・休日事故受付フリーダイヤル実施		
1995	・自動車共済の第4次制度改定（エアバック再装備特別見舞金を新設）		
1996	・自動車共済の第5次制度改定（家族搭乗500万円）		
1997	・自動車共済の第6次制度改定（無事故優遇掛金制度）		
1998	・自然災害保障付火災共済制度発足		
1999	・総合共済基本型（月額300円に）制度改定		
2000	・自動車共済の第6次制度改定（無事故優遇掛金制度）		
2001	・自然災害保障付火災共済制度発足		
2002	・JOYを休刊（46号）		
2003	・JOYを休刊（46号）		
2004	・愛車見舞金共済が制度改定（見舞金限度額を100万円に）		
2005	・愛車見舞金共済が制度改定（見舞金限度額を100万円に）		
2006	・自然災害共済（地震による倒壊・火災1200万円）制度改定		